

シリーズ「授業風景4」

～「人権学習」の実際～

2024・11・20 重枝 一郎

重枝先生は、「各クラスの学級委員、前に出てきて。自分たちでつくった学級目標について話して」と呼びかけた。

各クラスのリーダーが前に出て、学級目標とその意味を話しました。
例えば、こんな感じです。

「1組学級委員の〇〇です。1組の学級目標は、『けじめ・協力・元気』です。けじめは、授業と休み時間の区別をしっかりとつけることで、協力は、みんなで力を合わせて、授業でも何にでも取り組むことで、元気は、授業中などにしっかりと声を出して発表することです」

これに対して、重枝先生が1組のリーダーに問います。

「それで、1組はその目標に対して、今、どんな状況ですか？」

「できていることと、できていないことがあります。けじめがつかずに、授業中の私語が多いことがあります」

重枝先生は、生徒たちの日常から、「協力」「団結」ってどういうことなのか、口で言うのは簡単だけど、それを実現させるってどういうことなのか、それを考えさせようと、何度も何度も問いかけます。リーダーに、メンバーにも。

次のクラスの学級目標「明るく前に進むクラス」に対して、重枝先生は問いかけます。

「前に進んで、何が前に進みましたか？ 何か、前に進んだことはありますか？」

「信頼関係です」

「クラス全員が、どんどん仲良くなっていますか？」

「……」 首をひねるリーダー

「みんなが、幸せになっていますか？ 困っている人はいませんか？ リーダーは、それをよく見ておくことが責任だ。自分たちの幸せは自分たちでつくるんだ」

また、他のクラスの学級目標「一致団結」を聞いた後には、

「一致団結の意味はわかるでしょう。み～んなが気持ちがひとつですよ。団結して、全員が成長するんですよ。どうですか？」

「まだまだです」 答えたリーダーに、問いかけます。

「評論家ですか？ 違うよね。君はリーダーだよ。それならがんばらないと！」

「粘り強くという学級目標なら、クラス全員が、粘り強く頑張ることだよ。全員が粘り強くやるためには、励まし合ったりできているか？ リーダーとして、そこを見てる？ どう？」

「粘り強くない人もいます」

「そう。でも、粘り強い人もいますよ。リーダーに、見えていないこともあるよね。お互いによく見ることが大切ですよ。お互いを教科書だと思って、学び合えばいい。誰にも素晴らしいところ、よいところが絶対にある。それを、お互いが教科書だと思って、きちんと見て、学び合っていけばいい」

このように、重枝先生とテンポ良い対話が続き、7組までの発表が終わりました。

そしてまた、重枝先生が熱く語ります。

「目標をつくりました。でも、本気になっていません。うまくいかないところからが、本気の自分たちの見せ場になる。このままだと、目標がいつの間にか消えていくよ。教室に貼っている学級目標の紙は、ただの飾りになっているのかもしれない。これだけいろいろな人間がいるんだから。目標を共有するって、ものすごく難しいことですよ。仲良くするだけでも、ものすごく難しいことなんです。だからお互い、思いやりをもって、日常から意識していかないと、目標に向かっているとは言えません。いくらカッコいい目標をつくったとしても、それは口だけです。

さっきも言った通り、人は『したこと』だけです、理解できるのは。ここにいる全員がこの学校で生活することが幸せだと思うためには、実際に自分が行動しないとけない。口に出して実行するんです」

体育館の空気がピリッとします。生徒の表情も真剣そのものです。

ここから、「ビーイング」開始です。
まず、全員にワークシートが配られました。

《次回5に続く…》